

病虫害防除所の活動(12)

リレー随筆

滋賀県病虫害防除所の活動

(滋賀県病虫害防除所長 おおはしきょういち 大橋 恭一)

滋賀県における発生予察事業は、1941（昭和16）年に県内6観察区が設置され、農業試験場の職員2名の選任職員で開始された。1947（昭和22）年に県内6か所に病虫害観察所が設置されたが、1952（昭和27）年に廃止、病虫害防除所が設置された。

その後、1985（昭和60）年4月に6か所の病虫害防除所が蒲生郡安土町大中の農業試験場の施設内に整備統合され1県1か所となった。また、1992（平成4）年からは、各農業改良普及所の6名が兼務職員として配置され、地域の発生予察充実に向けて体制が強化された。

1 組織体制

2000（平成12）年4月から防除所長・次長以下、職員すべてが農業総合センター・農業試験場・環境部との兼務体制となり、2001（平成13）年の組織体制は所長、次長各1名、所員9名、管理・庶務2名および各地域農業改良普及センターの普及員7名の合計20名である。所員9名のうち2名は農業試験場花き果樹分場と茶業指導所に所属している。

2 活動の内容

滋賀県の気象は夏は瀬戸内海気候、冬は湖北地域は北陸型の気候となり、降雪が多くなるが、湖南地域では太平洋型の気候になる。また、耕地面積の92%が水田であり、水稻に特化した作物が栽培され、近江米（古くは江州米）として京阪神・中京方面で親しまれている。近年はコムギの栽培面積も多くなっており、次いでダイズが多く栽培されている。県の南部の中山間地帯には茶が900ha弱栽培されており、近江茶として販売されている。さらに、カキ、クリ、ナシ等の樹園地が1,300ha程度ある。

県土の中央に琵琶湖が約1/6を占めており、近畿1,400万人の貴重な水源となっている。県内の大小約450の河川は、ほとんど琵琶湖に流入しており、これら河川流域での生活、事業活動ならびに農業生産活動の影響が直接河川・琵琶湖の水質に影響を与えるため、県では早くから環境への負荷を少なくする、環境にこだわった農業を推進している。

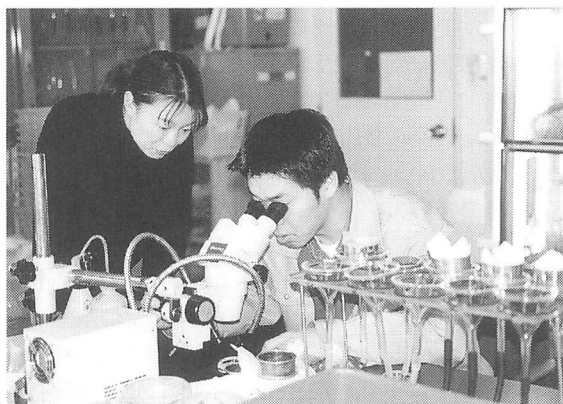


写真-1 病気の診断

(1) 病虫害の発生予察

発生予報は水稻、ムギ、ダイズを中心に野菜、果樹、茶、花についても指定病虫害・重要病虫害等の発生状況を調査し、3月から9月までの10回（6～8月は2回/月）、発生予報ならびに本県独自の防除情報の提供を行っている。水稻の病虫害発生調査は、琵琶湖を中心にして大津・湖南・甲賀地域、東近江・湖東地域、湖北・湖西地域の3ブロックに分けて病害・虫害専門の各1名ずつを1班とし、定点調査を65地点で行っている。県内の主な品種としては‘コシヒカリ’、‘キヌヒカリ’が65%、‘日本晴’が25%作付されている。数年前から斑点米カメムシ類による斑点米が多発し、乳白の発生の影響もあったが、1999（平成11）年産米の1等米比率は48.5%と全国平均63%を大幅に下回り、特に作付面積の多い‘コシヒカリ’、‘キヌヒカリ’では40%を割る状態であった。平成12年の斑点米カメムシ類は畦畔での発生量が平成11年の約10倍と多くなったため、注意報を7月17日に発表した。その後も水田内で多く認められたため、8月3日に警報を発表した。その結果、適期防除・追加防除等により斑点米の発生率は平成11年産米の5.6%から3.8%へと低下し、発生予察の重要性が示された。

(2) 情報の提供

発生予察情報、注意報や警報、さらには防除に関する情報は農業関係機関や関係団体約200か所にファックスで配信している。この内容はファックス情報サービス「アグリファックス滋賀」に掲載し、ファックス番号（0748-46-5454）でも取り出すことができる。また、このファックス情報では防除に関する情報のみでなく、水稻等の生育情報、水稻の生育予測等、広く栽培管理に関する情報についても取り出せるようになって

The Activity of Plant Protection Office in Shiga, By
Kyoichi OHASHI

(キーワード: 滋賀県, 発生予察事業)

ている。

(3) 地域の防除組織との連携

病害虫防除所の発生予察は県下全域を対象にしているが、水稻の病害虫防除法が1998(平成10)年に航空から地上防除への転換が図られたこともあり、今後ますます地域発生予察が重要になってくる。各地域の普及センターには防除所の兼務職員1名が配置されており、各地域での病害虫の発生状況を情報交換し、県下の正確な発生状況を迅速に伝達するよう心がけている。また、県下50市町村に100名の防除員を任命し、いもち病、紋枯病、斑点米カメムシ類等の調査が実施され、地域の発生予察と防除指導に役立てられている。

また、防除員の資質向上を目的とした研修を年2回開催している。防除員は経験の豊富な人、そうでない人等様々であり、平成12年度は、いもち病の判定方法、ウンカ・ヨコバイの判別法さらにはアグリファックス等の取り扱い方など実習を取り入れ、なるべく分かりやすく、今後の防除員の知識・実技の向上等に役立つ研修とした。

(4) 防除に関する調査方法・技術開発

近年、病害虫診断業務の増加、発生予察対象病害虫の増大、水稻害虫の多発等により病害虫防除所の仕事量が増加しており、しかも、地域発生予察が重要になってきており、正確で簡易な予察手法を確立する必要がある。そこで葉いもちのより精度の高い予察法ならびに簡易で的確な麦赤かび病や斑点米カメムシ類等の発生量調査法の開発に取り組んでいる。しかし、これら簡易手法は従来の調査方法と比較して何を目的とするかによって変わってくるが、精度的に劣ることがあってはならず、他県あるいは国との連絡を十分とりながら進める必要がある。

(5) 農薬の安全管理ならびに指導・取り締まり

農薬取締法に基づいた農薬販売業者および防除業者の届出に関する事務を行っている。さらに農薬販売業者等への立入検査を実施し、農薬の安全管理を指導している。また、市町村・農協職員等を対象とした植物防疫研修会、農薬管理指導士認定研修会で農薬の安全管理と適正使用基準について指導している。

(28 ページから続き)

たり1個以上、公園などのような面的に施用する場合は10a当たり3個以上とする。

- 5) 本剤は使用する直前まで乾燥した冷暗所(約5℃)に保存すること。
- 6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などに注意し、特に初めて使用する場合には、

病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

毒性：(急性毒性) 普通物

通常の使用方法ではその該当がない。

(魚毒性) A 類

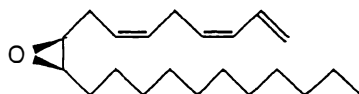
通常の使用方法ではその該当がない。

表-2

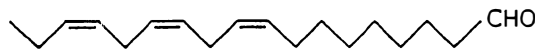
成分名	外 観	密度 (g/cm ³ , 24℃)	沸点 (℃)	融点 (℃)
(3Z,6Z,9S,10R)-シス-9,10-エポキシ-3,6-ヘニコサジニン	無色又は淡黄色透明液体	0.863	116	7.7
(3Z,6Z,9S,10R)-シス-9,10-エポキシ-1,3,6-ヘニコサトリエン	無色又は淡黄色透明液体	0.873	118	15.9
(9Z,12Z,15Z)-9,12,15-オクタデカトリエン-1-オール	無色又は淡黄色透明液体	0.875	108	-40.3



(3Z,6Z,9S,10R)-シス-9,10-エポキシ-3,6-ヘニコサジエン



(3Z,6Z,9S,10R)-シス-9,10-エポキシ-1,3,6-ヘニコサトリエン



(9Z,12Z,15Z)-9,12,15-オクタデカトリエン-1-オール

表-3

作物名	使用目的	適用害虫名	使用時期	使用量	使用方法
ブラタナス	誘 引	アメリカシロヒトリ	成虫発生初期から発生後期	直線使用(街路樹など)40m当たり1個以上 面使用(公園など)10a当たり3個以上	本剤をトラップ1台当たり1個貼付け、地上1~6mの高さに設置する